

「仮名の書において思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業実践」

授業者 岐阜県立岐阜農林高等学校 教諭 松原 直也
対 象 第2学年 20名
科 目 書道 I
内容のまとめ 「仮名の書」 A表現・B鑑賞

<単元設定の理由>

今回の学習指導要領改訂では、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽、美術、工芸、書道）編 音楽編 美術編』において、「汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた」とある。仮名の書の学習においては、代表的な古典や古筆の臨書などの学習活動を通して得た知識及び技能を生かしつつ、仮名の書の創作を行うことにより、生徒一人一人が思考力・判断力・表現力等の育成を図ることができないかと考え、本単元を設定した。

かつて、散らし書きの授業を行った際、生徒の中には和歌の意味を踏まえながら散らし書きを行う生徒と、与えられた紙面に対して言葉の意味には関係なく、単に文字や文字群を配置する生徒の様子を確認することができた。散らし書きは、行書きの対の用語として理解され、配置などの単純な構造を捉える学習活動に留まることも少なくない。しかし、散らし書きは平安貴族の美意識が発揮されながら多彩な美へと発展を遂げ、今日残る様々な古筆において見ることができる日本の伝統美であり、ただ単に与えられた紙面の中での文字や、文字群の位置を考えたものに留まることなく、線の太細の変化や、潤滑、和歌中における言葉のリズムなど様々な要素が影響しながら、散らし書きとして表現されているものである。したがって、仮名の書の創作の学習を通して、散らし書きについて生徒に深い理解を促し、汎用的な能力を養うためには、和歌等の意味を持つ言葉を書いているということや、言葉の意味を尊重することや、散らし書きが生まれた背景及びその要因について理解しながら、多角的な視点で学習を進めることが必要であり、その一連の活動が意図に基づいた表現をし、思考力・判断力・表現力等を働かせ、そして育成することに繋がるのではないかと考える。

<学習指導要領との関連>

高等学校芸術科書道 I の科目の目標に、「(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。」とある。また、特に「意図に基づいて構想し表現を工夫し」については、「生徒が自ら心に響く言葉を選定したり、内的欲求や外的刺激による感動によっておこる思いや感興に基づいて、作品を構想し表現を工夫したりして、試行錯誤しながら作品を完成させることである。その過程で、知識や技能を活用しながら、書を構成する要素や表現性、表現効果や風趣の視点をもって、実感的に表現活動を展開できるようにすることが大切である。」とされている。

書道 I の学習の中で、仮名の書の創作を行うことは、生徒にとっても困難な場面が多く考えられる。しかし、仮名の書の学習が臨書までに留まってしまえば、実感的に表現活動を通して学習することに繋がらないのではないかと考える。仮名の書の学習を通して生徒が身に付けた、知識や技能を活用しながら、仮名の書の創作の学習を行うことにより、一連の学習活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育成することができるかと考える。

生徒は、自らの意図に基づき構想し表現を工夫しながら、仮名の書の創作作品を表していくこととなる。その中で、ICTを積極的に活用しながら他者との意見交換などを通じて、試行錯誤しながら学習に

取り組めるよう、学習活動を工夫した。自らの作品を書いて表すことはもちろんのことであるが、他者との意見交換などを通じ、他者の考えや意見に触れることで、自分一人では気付かなかった考えを得ることができ、その上で再度自らの作品の構想・工夫の見直しに繋げられると考える。また、こうした学習活動を経て得た力は、漢字の書や漢字仮名交じりの書の他の学習においても生かすことのできる、汎用性のあるものになると考える。

<育てたい資質・能力>

岐阜県立岐阜農林高等学校は、創立120年を迎えた伝統校である。グラデュエーション・ポリシーには、「生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生」、「社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生」、「志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生」の3つが掲げられ、農業の専門高校として必要な基礎学力の充実を図ることはもちろんのこと、専門教育の充実を図り、7学科（流通科学科、園芸科学科、動物科学科、森林科学科、環境科学科、食品科学科、生物工学科）あるそれぞれの学科の特性に応じながら、将来の農業の担い手の育成を目指して、日々実習なども含めながら教育活動が行われている。

学科により、主として日頃生徒が取り扱うものや学ぶものは大きく異なっているが、広い意味で農業という地球上で人間が生活を営む上において、大切なものをそれぞれ学んでいることには違いない。書道で学習したことも、そこでの学びが生徒一人一人の将来にとって、何かしらの形で少しでも生かすことのできるものとなるように、年間の指導計画を考えている。

生徒は、それぞれ主体的に学習に取り組むことができ、学習意欲も高い。また、日頃課題研究などを通して、自らの意見を常に持ちながら学習に取り組むこともあり、特に自らの意図に基づいて表現するという学習活動においては、多様な表現を確認することができる。そのため、今回の研究授業においても、書道Ⅰではあるが散らし書きの創作に挑戦することとした。岐阜県は、大垣市が松尾芭蕉『奥の細道』のむすびの地ということもあるためか、県内において松尾芭蕉の句が散見される。そのため、今回の仮名の実践にあたっては、国語科の協力のもと、岐阜県にゆかりのある俳句を国語の時間にあらかじめ学習し、それらの俳句を用いて日本の伝統的な様々な書形式に、俳句の意味やイメージに合わせた散らし書きとして創作することを意図して行った。しかし、生徒にとって、仮名の書に限らず、創作し作品を表すことは、決して容易ではない。生徒によっては、支援を要する場面も多くある。また、様々な考えを巡らすことができるからこそ、自らの考えを見失うこともある。創作する一連の活動を通して、様々に試行錯誤することとなる。その活動を通して、自らの目標に対して、最後まで諦めることなく、挑戦し続ける姿勢を育てることに繋がることできるように配慮しながら、授業を構成していきたいと考えている。

1 単元名 「仮名の書の創作（俳句を用いた仮名の書の創作）」（「仮名の書」単元③）

2 本単元に関連する内容のまとめ

- ・「A表現」(3) 仮名の書 及び〔共通事項〕(1)
- ・「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

3 芸術の目標と評価の観点及びその趣旨

	(1)	(2)	(3)
目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(高等学校学習指導要領 P. 141)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙5 P. 3, 4)

4 書道Ⅰの目標と評価の観点及びその趣旨

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指要領 P. 157)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

5 単元構成

「A表現」(3)「仮名の書」 総時間数 18時間

単元①：仮名の書の基本（単体，変体仮名，連綿）

全6時間

単元②：仮名の書の古典とその表現（蓬萊切，高野切第三種，三色紙）

全6時間

単元③：仮名の書の創作（俳句を用いた仮名の書の創作）

全6時間 【本単元】

6 単元の目標

(1)「知識及び技能」

○知識

- ・線質や書風と用筆・運筆，用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。
- ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり，日本の文字と書の伝統と文化について理解する。

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆による技能や連綿と単体，線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。

(2)「思考力，判断力，表現力等」

- ・古典の書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫する。
- ・創造された作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさについて味わって捉える。

(3)「学びに向かう力，人間性等」

- ・自身の表現の意図に基づく表現，仮名の書の特質に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組む，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。
- ・書のよさや美しさを感じ，作品や書の意味や価値について考えながら，幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組む，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

7 内容のまとめりごとの評価規準

「A表現」(3) 仮名の書 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <p>・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。</p> <p>・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</p> <p>・連綿と単体，線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 	<p>主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <p>・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</p> <p>・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。</p> <p>・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 	<p>主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。		
----------------------------	--	--

8 単元の評価規準

(1) 「知識・技能」

○知識

- ・線質や書風と用筆・運筆, 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。(知表)
- ・線質, 字形, 構成等の要素と表現効果や風趣との関わり, 日本の文字と書の伝統と文化について理解している。(知鑑)

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆による技能や連綿と単体, 線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付けている。(技)

(2) 「思考・判断・表現」

- ・古典の書風に即した用筆・運筆, 字形, 全体の構成について構想し工夫している。(思表)
- ・創造された作品の価値とその根拠について考え, 書のよさや美しさについて味わって捉えている。(思鑑)

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

- ・自身の表現の意図に基づく表現, 仮名の書の特徴に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態表)
- ・書のよさや美しさを感じ, 作品や書の意味や価値について考えながら, 幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態鑑)

9 単元の指導と評価の計画

・年間授業時数・・・ 70 時間 ・「仮名の書」・・・ 18 時間 ・本単元の配当時数・・・6 時間

(1) 指導と評価の計画 (概要)

	学習活動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑	
単元③	第1次	鑑賞① (作品例)		↓			↓	↓	◎
		言葉の選定				↓	↓	↓	
	2時間	観点の確認① (単体)	↓						
		構想・工夫① (草稿)	◎			◎			
		相互鑑賞・意見交換①		◎			◎		
		観点の確認② (連綿, 変体仮名)							
		構想・工夫の見直し①	↓	↓		↓	↓	↓	↓
		学習のまとめ	↓	↓		↓	↓	↓	↓
		◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	◎	◎		◎	◎		◎
	第2次	構想・工夫②	↓			◎		◎	◎
		作品制作① (作品① 草稿)			↓				
		相互鑑賞・意見交換②		◎			◎		
		観点の確認③ (紙面構成*行頭・行脚, 行間・字間)							
		構想・工夫の見直し②							
2時間		構想・工夫③	◎						
作品制作② (作品②)				↓					
相互鑑賞・意見交換③			◎			◎			
観点の確認④ (紙面構成*余白)									
構想・工夫の見直し③		↓	↓		↓	↓	↓	↓	
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
単元③	第3次	観点の確認⑤ (紙面構成*言葉や意味)	↓	↓					
		構想・工夫④	◎			◎			◎
	2時間	作品制作③ (作品③)			↓			↓	
		自己評価①		◎			◎		
		観点の確認⑥ (書を構成する要素)							
		相互鑑賞・意見交換④		◎			●		
		構想・工夫の見直し④	●			●			
		構想・工夫⑤	◎					●	
		作品制作④ (作品④ 清書)			↓			◎	
	自己評価②		◎			◎			
	相互鑑賞・意見交換⑤		●			◎		◎	
	単元の学習のまとめ	↓	↓		↓	↓	↓	↓	
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		

※「学習活動」の網掛け部が本時

(2) 単元における観点別学習状況の評価方法

評価の観点と単元の評価規準		<p>○「おおむね満足である」状況（B）の例</p> <p>◎「十分満足できる」状況（A）の例</p> <p>◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て</p>
知識・技能	知表	<p>・線質や書風と用筆・運筆，用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。</p> <p>○線質や書風と用筆・運筆との関わりについて，おおむね理解している。</p> <p>◎線質や書風と用筆・運筆との関わりについて，構想・工夫したり意見交換で言語化したりする活動を通して実感的に理解している。</p> <p>◆線質や書風と用筆・運筆との関わりについて，ICTを活用して具体例を示すなどして実感的に味わい理解できるよう支援する。</p>
	知鑑	<p>・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり，日本の文字と書の伝統と文化について理解している。</p> <p>○線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり，日本の文字と書の伝統と文化について，おおむね理解している。</p> <p>◎線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり，日本の文字と書の伝統と文化について，相互鑑賞をしたり意見交換で言語化したりする活動を通して実感的に感受し，理解している。</p> <p>◆線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり，日本の文字と書の伝統と文化について，ICTを活用して具体例を示すなどして実感的に味わい理解できるよう支援する。</p>
	技能	<p>・古典に基づく基本的な用筆・運筆による技能，連綿と単体，線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付けている。</p> <p>○古典に基づく基本的な用筆・運筆による技能，連綿と単体，線質や字形を生かした表現の技能をおおむね身に付けている。</p> <p>◎古典に基づく基本的な用筆・運筆による技能，連綿と単体，線質や字形を生かした表現の技能を身に付け，表現性・表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で，技能を更に高めている。</p> <p>◆学習活動を振り返らせたり，ICTを活用して動画や画像を再度確認させたりして，表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。</p>
思考・判断・表現	思表	<p>・古典の書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>○古典の書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想・工夫し，おおむね自身の考えを言語化している。</p> <p>◎古典の書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について深く考えて構想・工夫し，知識を活用して自身の考えを適切に言語化している。</p> <p>◆意見交換での他者の捉え方や考え方を参考にしたり，これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し，構想・工夫とその見直し，再構築に取り組めるよう支援する。</p>

	思鑑	<p>・創造された作品の価値とその根拠について考え、書の上さや美しさについて味わって捉えている。</p>	<p>○創造された作品の価値とその根拠について考え、書の上さや美しさをおおむね味わって捉え、自身の考えを言語化している。</p> <p>◎創造された作品の価値とその根拠について自らの生活と関わらせて考え、書の上さや美しさを深く味わって捉え、自らの考えを適切に言語化している。</p> <p>◆意見交換での他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、書の上さや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	態表	<p>・自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の特質に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の特質に基づく幅広い表現の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の特質に基づく幅広い表現の学習活動に、計画的に自らの学習を調整しながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◆学習した古典の書風や表現効果、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識と技能を生かして、古典の書風に即して表現を工夫して主体的に表現の学習活動に臨めるよう支援する。</p>
	態鑑	<p>・書の上さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○書の上さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎書の上さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に幅広い視野から主体的に粘り強く取り組むとともに、生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く考えようとしている。</p> <p>◆学習した古典の書風や表現効果、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者の捉え方や考え方を振り返らせ、古典の書風及び自他の作品の上さや美しさを感じ、主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。</p>

(3) 観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

ア「知識・技能」

(ア)「知識」

【知表】・・・(評価対象) ワークシート, 活動の様子 (意見交換における発言) 等
(学習活動) 「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」等

【知鑑】・・・(評価対象) ワークシート, 活動の様子 (意見交換における発言) 等
(学習活動) 「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」等

(イ)「技能」

【技】・・・(評価対象) 作品 等
(学習活動) 「作品制作」等

イ「思考・判断・表現」

【思表】・・・(評価対象) ワークシート, 作品, 活動の様子 (意見交換における発言, 作品制作における取組状況) 等

- (学習活動)「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」等
【思鑑】・・・(評価対象)ワークシート, 活動の様子(意見交換における発言等)等
 (学習活動)「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」等

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

- 【態表】**・・・(評価対象)ワークシート, 活動の様子(作品制作における取組状況)等
 (学習活動)「構想・工夫」「作品制作」等

- 【態鑑】**・・・(評価対象)活動の様子(意見交換における発言, 鑑賞活動における取組状況),
 ワークシート 等
 (学習活動)「鑑賞」「構想・工夫」「相互鑑賞・意見交換」
 「学習のまとめ」「単元の学習のまとめ」等

(4) 本時における学習過程と評価の具体

単元③「仮名の書の創作(俳句を用いた仮名の書の創作)」第3次(2時間)の学習計画【本時はその1時間目】

活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の方法						
				◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価						
				知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑				
第3次	導入	10分	<p>○観点の確認⑤ ◎紙面構成</p> <p>・「三色紙」,「檜原図屏風」,「舟橋蒔絵硯箱」を改めて鑑賞し,制作しようとする作品について考え,構想・工夫に繋げる。</p> <p>○構想・工夫④</p> <p>・制作する作品について,表現の意図,構想・工夫した点を踏まえ,次時の清書に向け,本時は作品制作と意見交換を行うことを確認し,ワークシートの「①表現の意図,作品の構</p>	<p>・前時において提示した,「三色紙」,「檜原図屏風」,「舟橋蒔絵硯箱」を改めて提示し,紙面構成による表現効果を確認し,構想・工夫の見直しの支援をする。(ICTの活用)</p> <p>・自らの表現の意図,構想・工夫しようとする点などについて,特に紙面構成の観点から再度考え,作品制作に繋げるため,ワークシートに具体的な記述をすることができるよう支</p>	ワ ◎	ワ ◎	ワ ◎			

		想（構想の再構築）」と「②表現の工夫」の欄に記入する。	援する。					
展 開	80 分	○作品制作④（作品④）	<ul style="list-style-type: none"> これまで作品制作に向けて意識した自らの意図や構想，表現の工夫の計画について振り返り，また特に紙面構成の観点から作品制作における工夫として表現できるよう支援する。 作品制作時に確認した紙面構成の観点から，最もその成果が表れた作品を選定できるよう支援する。 自身がこれまで行ってきた学習過程の振り返りが，次時の学習（清書）への見通しに繋がられるよう働きかける。 自己評価を適切に行えない場合は，振り返りと自己評価の方法や観点について示し，自己評価に繋がられるよう支援する。 	ワ ◎	ワ ◎	ワ ◎	観	
		<ul style="list-style-type: none"> 意図に基づく構想と，表現の工夫の計画に基づき，練習用紙（ロール紙）及び清書用紙（料紙）に具体的に作品を書いて表す。 						
		○自己評価①	<ul style="list-style-type: none"> 自身の表現の意図，構想・工夫した点に基づき，その成果が最もよく表れた作品を1点選定する。 自身の制作と構想・工夫の過程を振り返り，作品の変化や表現の工夫の経緯，身に付けた知識と技能を改めて確認し，見方・考え方を働かせて，完成した作品（次回清書）とその制作過程について自己評価を行い，ワークシートの「③自己評価」の欄に記入する。 					
		○観点の確認⑥		<ul style="list-style-type: none"> 参考となる古典の画像を提示して，書を構成する要素について分かりやすく提示し，次に行う意見交換や，構想・工夫の見直しに繋がられるよう支援する。（ICTの活用） 				
		◎書を構成する要素（線質・字形・構成等）						
		・書を構成する要素について確認し，ワークシートの「④観点の確認」の欄に記入し，意見交換及び構想・工夫の見直しに繋げる。						

		<p>○相互鑑賞・意見交換④</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞・意見交換を行うため、作品の写真をタブレットで撮影し、ワークシートの「作品の写真」の欄に貼り付ける。 見方・考え方を働かせて、実際の作品を鑑賞することを通して、他者との作品の共有・相互鑑賞を行い、それぞれの表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫等について、意見交換をし、ワークシートの「⑤他者からの意見」の欄に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の作品や意見を認め合い、それらを尊重する姿勢で学習活動を行うよう、生徒に留意させる。 意見交換においては、それぞれの感じ方や捉え方、考え方を伝え合い、互いに他者の考え方を尊重しながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を広げられるよう働きかけ支援する。 書のおよさや美しさ、作品の意味や価値についても、段階的に考えられるよう支援する。 	ワ ◎		ワ ●	
		<p>○構想・工夫の見直し④</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞・意見交換を通して広げた見方・考え方を働かせ、表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫を見直し、必要な修正及び新たな課題などを確認し、ワークシートの「⑥構想・工夫の見直し」の欄に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直した内容が、次時の清書へと繋げることができるよう、具体的に記述するよう働きかける。 他者の意見の活用の仕方や、それを生かした構想・工夫の見直しの手順がスムーズに行えない場合には、活用の仕方を具体的に例示するなどして、段階的に支援する。 	ワ ●		ワ ●	
		<p>○構想・工夫⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者との作品の相互鑑賞・意見交換及びそこでの見方・考え方の交流を生かして、自身の表現の意図、構想、表現の工夫について改めて考え、再構築し、適切に言語化し、ワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 他者との作品の相互鑑賞・意見交換及びそこでの見方・考え方の交流を生かして、構想・工夫に取り組めるよう、作品に赤鉛筆を用いて補助線を入れるなどしながら支援する。 	ワ ◎		ワ ●	

		<p>シートの「①表現の意図，作品の構想（構想の再構築）」、「②表現の工夫」の欄に記入する。</p> <p>○作品制作⑤（作品⑤清書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想・工夫の見直しを踏まえ，自身の表現の意図及びそれに基づく構想，その実現のために表現を工夫し，落款及び落款印の押印も含め作品を表す。 <p>○自己評価②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の表現の意図，構想・工夫した点に基づき，その成果が最もよく表れた作品を1点選定する。 ・自身の制作と構想・工夫の過程を振り返り，作品の変化や表現の工夫の経緯，身に付けた知識と技能を改めて確認し，見方・考え方を働かせて，完成した作品（次回清書）とその制作過程について自己評価を行い，ワークシートの「③自己評価」の欄に記入する。 <p>○相互鑑賞・意見交換⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互鑑賞・意見交換を行うため，作品の写真をタブレットで撮影し，ワークシートの「作品の写真」欄に貼り付ける。 ・見方・考え方を働かせて，他者と実際の作品を鑑賞することを通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで作品制作に向けて意識した自らの意図や構想，表現の工夫の計画について確認し，作品制作（清書）することができるよう支援する。 ・確認した観点について，最もこれまでの成果が表れた作品を選定できるよう支援する。 ・自己評価を適切に行えない場合は，振り返りと自己評価の方法や観点について示し，自己評価に繋がれるよう支援する。 ・他者の作品や意見を認め合い，それらを尊重する姿勢で学習活動を行うよう留意させる。 ・意見交換においては，それぞれの感じ方や捉え方，考え方を伝え合い，互いに他者の考え方を尊重しながら，自身の感じ方や捉え方， 	<p>フ ◎</p> <p>フ ◎</p> <p>フ ●</p>	<p>作 ●</p>	<p>フ ◎</p> <p>フ ◎</p>	<p>観 ◎</p> <p>フ ◎</p> <p>フ ◎</p>
--	--	--	--	--	----------------	-------------------------------	--

		て、作品の共有・相互鑑賞を行い、それぞれの表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫等について、意見交換し、ワークシートの「④他者からの意見」の欄に記入する。	考え方を広げられるよう働きかけ支援する。 ・書よさや美しさ、作品の意味や価値についても、段階的に考えられるよう支援する。(ICTの活用)							
まとめ	10分	○単元のまとめ ・これまでの仮名の書の学習を振り返り、学習した内容について改めて確認するとともに、作品の意味や価値、生活や社会、今後の書道の学習の中で生かすことについて、主体的に考え、「⑤学習のまとめ」の欄に記入する。	・これまでの仮名の書の学習を振り返らせ、仮名の書の学習を通して習得した知識や技能、作品を制作する中での思考・判断の過程、学習の中で働かせ広げた見方・考え方について改めて考えさせることにより、自身のこれまでの学習の成果を実感させるとともに、自身や他者が表現した作品の意味や価値について主体的に考えたり、学習の成果を生活や社会、今後の書道の学習の中で生かしていきたいと主体的に考えたりできるよう支援する。							フ ●
◎指導に生かす評価				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
●記録に残す評価				●	●	●	●	●	●	●

※「活動の流れ」の網掛け部が本時

10 成果と課題

(1) 成果

今回の実践を通して得られた成果は、大きく次の2点である。

まず1点目は、生徒それぞれが何かしらの意図をもった散らし書きを行うことができたことである。以前、いわゆる行書きの古筆として挙げられる「高野切第三種」を用いて、散らし書きに関わる実践を行ったことがある。その際に、例えば和歌の中における語順が前後し、結果として一首の和歌として成立していない作品例が見られた。また、生徒それぞれに対して散らし書きの意図を確認した際、和歌の意味を踏まえながら学習に取り組んだ生徒がいる一方で、特に意図はなく何となくという生徒も見られた。今回の全高書研岐阜大会の研究協議において、その全てに意図をもたせるのではな

く、中には何となくというのも必要ではないかという視点から協議された。私自身も、何となくということは生徒が学習に取り組む上において、必要な視点であると考え。特に、今回のような創作作品を制作する学習活動においては、必要な視点であるだろう。しかし一方で、全て何となくではなく、授業の中において取り組む際には、意図をもつということも必要であると考え。その意図が正解か不正解かということに当てはめるではなく、生徒自身がこれまで学習したことを活かしながらどのように考え取り組んだのかということ、仮名の書の学習特に創作の学習を通じて意識することができたのではないかと考える。ここで培った力は、例えば漢字仮名交じりの書の学習の中で、紙面構成を考える際にも繋がる汎用的な力になるのではないだろうか。

次に2点目は、国語科との連携の授業を通し、事前に言葉の意味やその俳句の背景を理解することや、言葉を大切にしながら、仮名の書の創作に取り組むことができたことである。今回は、岐阜県にゆかりのある松尾芭蕉の俳句を用いて仮名の書の創作に取り組んだ。意味の理解を通じて得たものや、俳句や言葉そのものの意味が全て直接書の表現の中で表されるものではないが、和歌や俳句のいずれの場合においても、当時の人々は当然ながら言葉の意味を理解し、また作者として何かしらの背景をもちながら和歌や俳句を詠むことを通じて表現したと考えられる。そうした視点からも、国語科との連携を通じて事前の学習を行うことで、言葉の意味や俳句の背景を理解した上で、仮名の書の創作作品として表現することができたと考え。また、ここで培った力は、漢字仮名交じりの書の学習で作品制作をする際にも活用する様子が散見され、改めて汎用的な力を育成することの大切さを実感した。

(2) 課題

今回の実践を通して得られた課題は、大きく次の3点である。

まず1点目は、作品中における線質などの細かい点についての指導についてである。仮名の書においては、特に繊細な部分も多いためきめ細やかな指導が必要であると考え。線質については、仮名の書においてはもちろんであるが、漢字の書や漢字仮名交じりの書においても同様に重要な点である。仮名の書における線質の指導については、今回の該当単元においてはもちろんのことであるが、年間の学習を通じてより工夫していかなければならないと考える。また、例えば漢字の書の学習を通じてそれらを身に付け、仮名の書の学習においても生徒が自ら気づき、そして積極的に活かしていけるような力とする必要があるだろう。

次に2点目は、意見交換の在り方についてである。今回の実践においては、ICTを活用し全体で意図や作品の画像などを共有しながら、クラス全体で同時進行的に意見交換を行った。生徒は、他者の作品や意図などを写真や作品の実物、また文章通じて確認しながら意見交換を行い、自らの作品に対して出された他者からの意見を確認しながら、その後構想・工夫の見直しへと繋げていくこととなる。今回、実際に生徒から出された意見の全てが、作品を制作した生徒にとって、新たな気づきや深まりを与えるものばかりではなく、良い点のみが書かれたものもあり、また抽象的な表現で書かれたものなど様々であった。学習活動の一環として行う意見交換が、生徒にとってその後の各自の学習に効果的な影響を与えるものとして機能するためには、意見交換の手段や方法についての検討はもちろんのこと、用いる語句を強調するなど工夫する必要があると考えられる。

最後に3点目は、ICTの効果的な活用についてである。これは、今回の実践に限ったことではないが、どの場面でどのような効果を求めてICTを活用するのかということ、常に考えながら授業を実践することが大切であると感じた。今回も、全高書研岐阜大会の研究協議において、当日の発表のような形式でICTを活用することの必要性についても意見が出された。デジタルポートフォリオの視点から考えられるメリットもあったと思うが、その活動を通して本当に意見が深まるのか、また入力などのICTに関する操作に費やす時間もある程度必要となるため、その部分について例え

ば作品を書く時間などの別の学習活動の時間として確保することができないかということも含め、常にメリットとデメリットを確認しながら、様々な場面においてICTを効果的に活用できるようにする必要があります。

1 1 年間指導計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5	オリエンテーション	中学校国語科書写から高等学校芸術科書道へ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科書写から高等学校芸術科書道への接続について理解する。 ・用具用材の基礎的な知識や、正しい扱い方を身に付け、正しく扱うことができる。 ・正しい姿勢、執筆法を身に付け、基本点画の種類を理解し、筆の特徴を意識しながら書くことができる。 	観察 観察、ワークシート 作品	○	○	○
6	漢字の書①	〈楷書〉書風と結構法 (孔子廟堂碑, 九成宮醴泉銘)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・孔子廟堂碑, 九成宮醴泉銘の特徴を理解し, 主体的に表現できる。 ・孔子廟堂碑, 九成宮醴泉銘を鑑賞し, 字形や書風の特徴などについて理解する。 	作品 観察, ワークシート	○	○	○
7	漢字の書②	〈楷書〉書風と線質(筆圧の変化) (雁塔聖教序, 顔氏家廟碑)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・雁塔聖教序, 顔氏家廟碑の特徴を理解し, 主体的に表現できる。 ・雁塔聖教序, 顔氏家廟碑を鑑賞し, 字形や書風の特徴などについて理解する。 	作品 観察, ワークシート	○	○	○
7	漢字の書③	〈行書〉行書の運筆の基本と書風 (蘭亭序, 風信帖)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書及び行書の違いについて理解しながら, 表現できる。 ・蘭亭序, 風信帖の学習を通して, 用筆法の違いが表現に繋がることを理解する。 	ワークシート, 作品 ワークシート	○	○	○
	漢字の書④	漢字の書の創作	5	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書について, 楷書や行書の学習を通して理解したことを踏まえ, 作品を創作する。 	ワークシート, 作品	○	○	○
8	漢字の書⑤	〈篆書〉篆書の字形と筆法 (泰山刻石)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の特徴とその成り立ちについて理解する。 ・泰山刻石の臨書を通し, 篆書の字形と筆法について理解し表現できる。 	ワークシート ワークシート, 作品	○	○	○
9	漢字の書⑥	〈篆書〉篆刻作品制作	8	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻に用いる用具・用材についてや, 基本的な運刀の方法について理解する。 ・篆刻作品を制作する面白さを味わい, 主体的に篆刻作品の制作に取り組むことができる。 ・相互に作品を鑑賞し, 感じたことや考え方などを踏まえ, 意見交換することができる。 	観察 観察, ワークシート, 作品 観察, ワークシート	○	○	○
10	仮名の書①	仮名の書の基本 (単体, 変体仮名, 連綿)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書の学習に用いる用具・用材の基礎的な知識や, 正しい扱い方について理解する。 ・仮名の書の基本について理解し, 表現できる。 ・仮名の歴史的背景について理解を深め, 日本の文 	観察 作品 観察, プリント	○	○	○

				字文化に興味をもつことができる。				
11	仮名の書②	仮名の書の古典とその表現 (蓬萊切, 高野切第三種, 三色紙)	6	・仮名特有の美しさを味わい, 用筆法, 運筆の際のリズムを習得することができる。 ・蓬萊切, 高野切第三種, 三色紙, それぞれの特徴やその表現について理解し, 表現できる。	観察, 作品 ワークシート, 作品	○	○	○
	仮名の書③	仮名の書の創作 俳句を用いた仮名の書の創作)	6	・仮名の書の学習を通して理解し, 身に付けた内容を生かし, 作品を制作することができる。 ・相互に作品を鑑賞し, 感じたことや考え方などを踏まえ, 意見交換することができる。	観察, 作品 観察, ワークシート	○	○	○
12	漢字仮名交じりの書①	カレンダー制作	6	・自らの意図をもち, 創作作品を制作することができる。 ・表現を工夫し, 試行錯誤しながら創作作品の制作に取り組むことができる。	ワークシート, 作品 ワークシート, 観察, 作品	○	○	○
1	漢字仮名交じりの書②	漢字仮名交じりの書の作品制作	9	・用筆・運筆による表現効果や全体の構成, 漢字と仮名の調和等について理解し, 作品を制作することができる。 ・学習したことを生かし, 自らの意図に基づき構想 ・工夫し, 作品を制作することができる。	ワークシート, 作品, 観察 ワークシート, 作品, 観察	○	○	○
	漢字仮名交じりの書③	漢字仮名交じりの書の作品鑑賞 学習のまとめ	2	・完成した作品を鑑賞し, 感じたことや考え方などを踏まえ, 意見交換することができる。	観察, ワークシート	○	○	○
			70					

12 参考文献

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領』(平成31年2月), 株式会社 東山書房
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 芸術(音楽, 美術, 工芸, 書道)編 音楽編 美術編』(平成31年3月), 教育図書株式会社
- ・文部科学省初等中等教育局通知「小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成31年3月)
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術(書道)】』(令和3年11月), 株式会社 東洋館出版

〈資料〉

①ワークシート

【仮名の書の創作 ワークシート】

氏名	作品の写真	①表現の意図, 作品の構想 (構想の再構築)	②表現の工夫	③自己評価	④観点の確認	⑤他者からの意見 (思考・判断・表現)	⑥構想・工夫の見直し
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						
	写真貼付欄						

*ワークシート部分拡大① (ワークシート上部左側)

氏名	作品の写真	①表現の意図, 作品の構想 (構想の再構築)	②表現の工夫	③自己評価
	写真貼付欄			

*ワークシート部分拡大② (ワークシート上部右側)

④観点の確認	⑤他者からの意見 (思考・判断・表現)	⑥構想・工夫の見直し

②パワーポイント（観点の確認⑤）

「三色紙」

「三色紙の鑑賞と散り書き」

・本阿弥光悦作
・縦24.2cm×横22.9cm×高11.8cm
・江戸時代
・東京国立博物館蔵

・本阿弥光悦作
・縦24.2cm×横22.9cm×高11.8cm
・江戸時代
・東京国立博物館蔵

「蓬莱切」

「三色紙」

「舟橋蒔絵硯箱」②

【和歌】
東路の里の海橋 かけてのみ
思わたるまきさる人ぞなき
船板の端を舟の端に添へて
あててて語れ入て語れ入
【漢詩】
思わたるまきさる人ぞなき

・本阿弥光悦作
・縦24.2cm×横22.9cm×高11.8cm
・江戸時代
・東京国立博物館蔵

「檜原因屏風」

・正徳後半
・縦131.5cm×横340.0cm
・桃山時代
・京都府立総合文化センター蔵

「檜原因屏風」

【和歌】
初瀬山 夕巻を暮れて 語れ入
三瀬の浦に 秋風を吹く
【漢詩】
あててて語れ入て語れ入
あててて語れ入て語れ入

・正徳後半
・縦131.5cm×横340.0cm
・桃山時代
・京都府立総合文化センター蔵

感想

- 「様々なところに文字を配置しながら、一つの和歌として読める工夫がされている。」
- 「線の太細の変化や、文字の大小の変化を付けながら、表現されている。特に、秋風の秋はダイナミックに力強く太く書かれており、同じ所には他の文字が書かれていないのが理解できる。」
- 「行頭や行脚の高さが同じ位置に書かれているものがない。どれも、違う高さになっている。」

「寸松庵色紙」

- 線質
 - ・線の太細
- 字形
 - ・流れの方向
- 構成
 - ・余白
 - ・文字の大小

など

・紀寛之
・縦12.7cm×横12.7cm
・平安時代

「継色紙」

- 線質
 - ・線の太細
- 字形
- 構成
 - ・文字の大小
 - ・字間、行間
 - ・余白

など

・小野道風
・縦13cm×横24.8cm
・平安時代

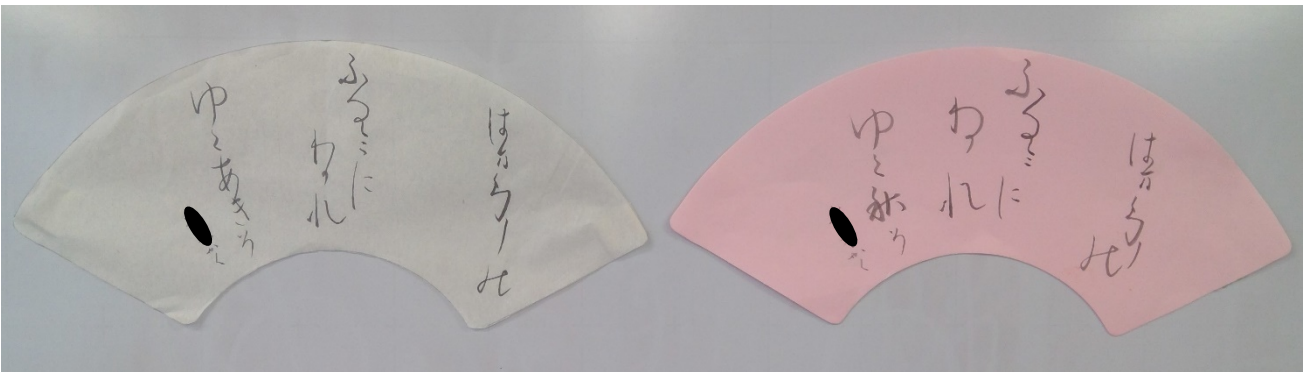
【参考となる観点（*記述の際に用いる。）】

- ・線の太細
- ・潤滑
- ・概形（外形）
- ・行の流れの方向
- ・全体の構成
- ・余白
- ・文字の大小
- ・字間
- ・行間

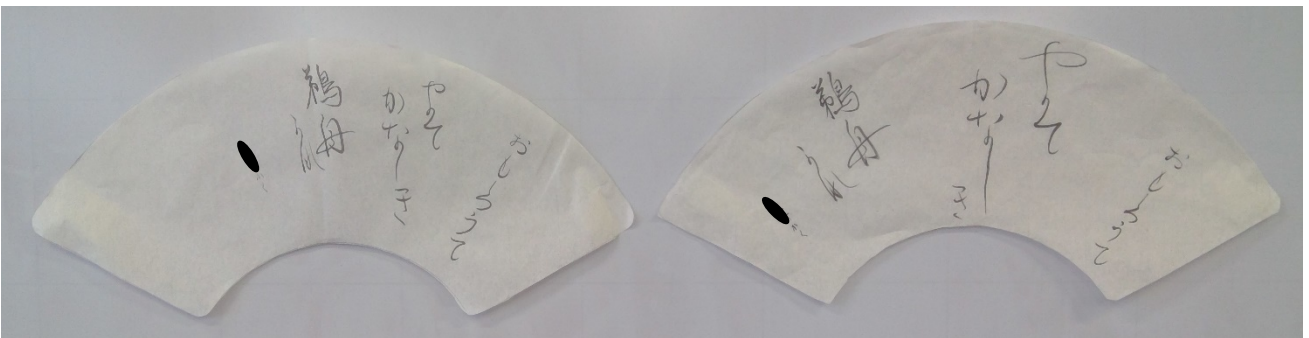
3

④生徒作品例（左側の作品：前時で制作した作品／右側の作品：本時で制作した作品）

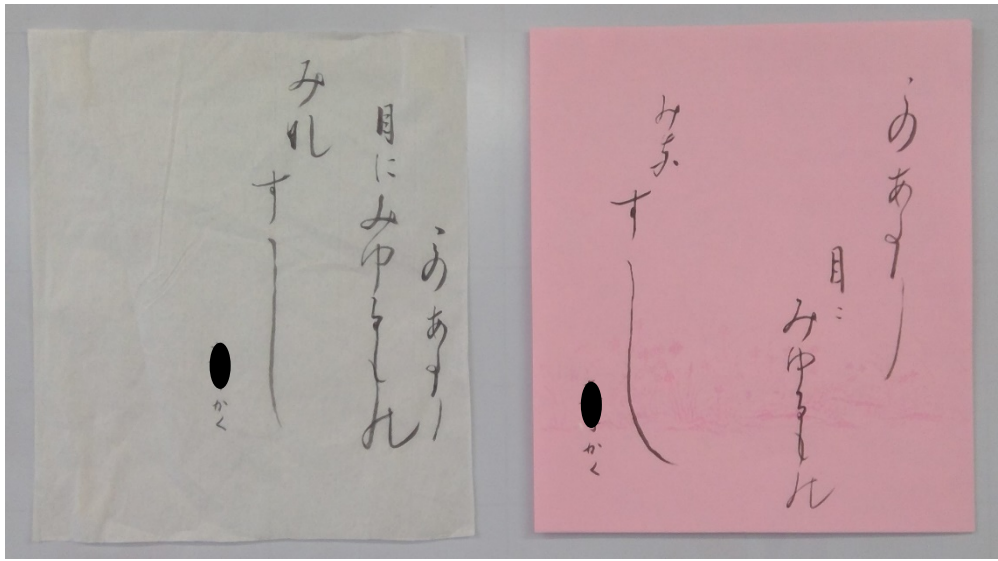
●作品例 1



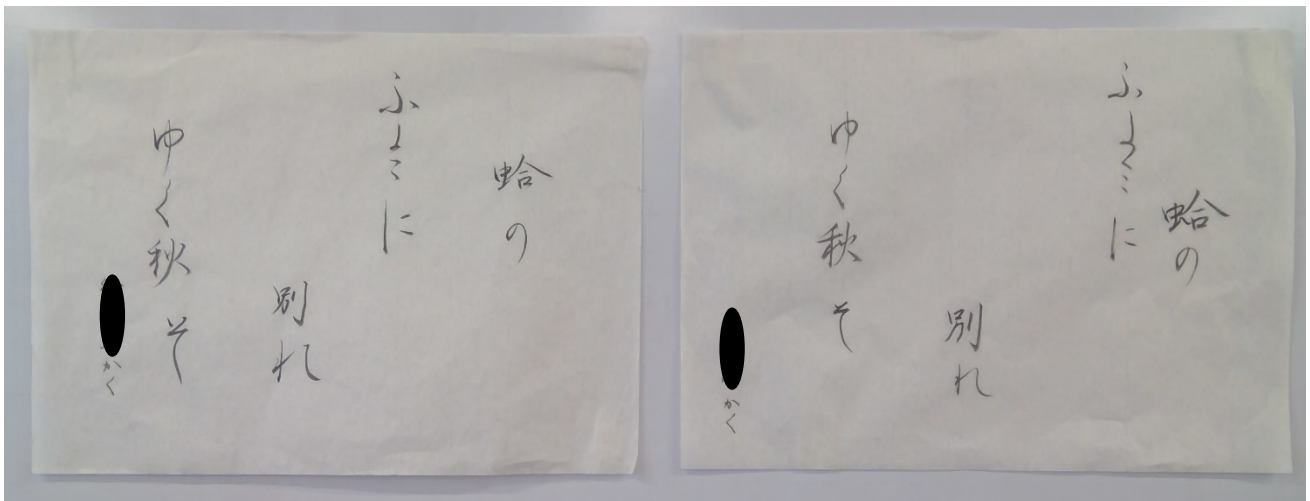
●作品例 2



●作品例 3



●作品例 4



①ワークシート（単元3 第3次2時間目）

【仮名の書創作 ワークシート】

氏名	作品の写真	①表現の意図、 作品の構想（構想の再構築）	②表現の工夫	③自己評価	④他者からの意見（※※※※※）	⑤学習のまとめ
	写真貼付欄					
	写真貼付欄					
	写真貼付欄					
	写真貼付欄					
	写真貼付欄					

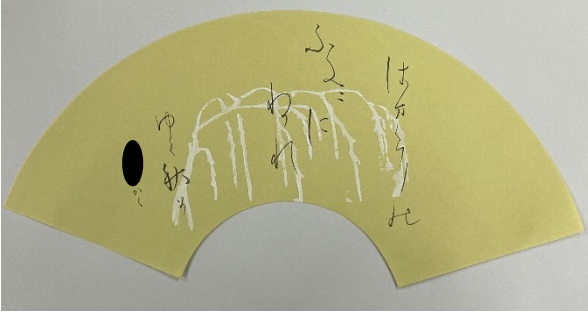
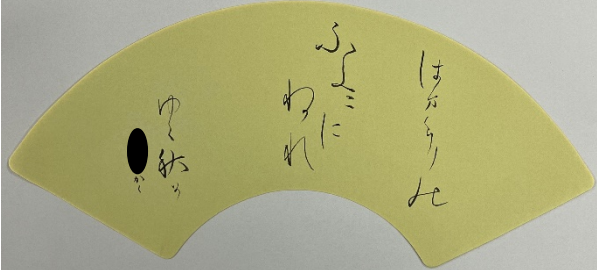
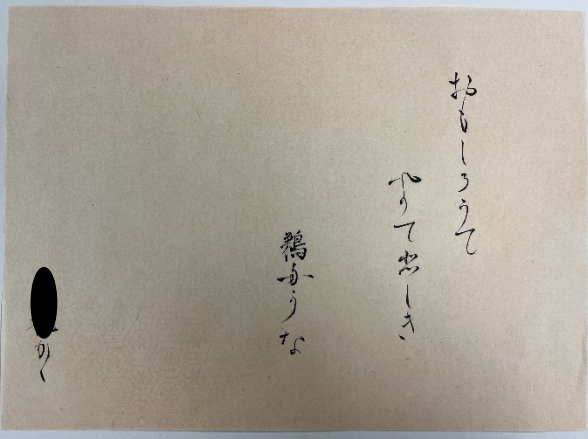
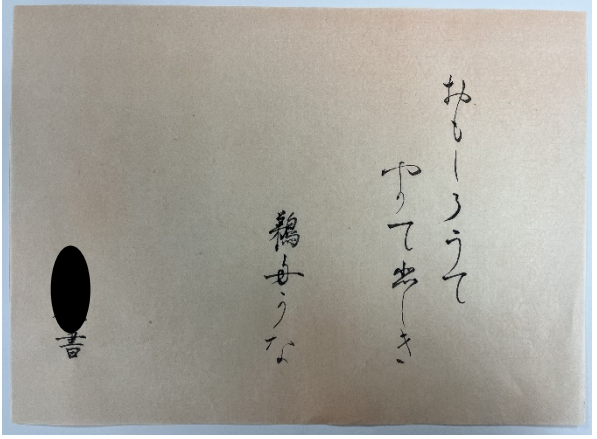
②ワークシート（単元3 第3次2時間目）＊拡大図

【仮名の書の創作 ワークシート】

氏名	作品の写真	①表現の意図、 作品の構想（構想の再構築）	②表現の工夫	③自己評価	④他者からの意見 <small>（注：100字以内）</small>	⑤学習のまとめ
	写真貼付欄					

③生徒作品例

単元3 第3次1時間目の作品（＊研究授業）	単元3 第3次2時間目の作品
-----------------------	----------------

<p>生徒A</p>		
<p>生徒B</p>		
<p>生徒C</p>	